

1 本校の教育目標

教育基本法第一条に照らし、次の教育目標をおく。

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、個性・能力の伸長に努める。
- (2) 道徳的実践力の育成を図るとともに、基本的な生活習慣の形成に努める。
- (3) 強健な身体と体力の向上を図るとともに、健康で安全な生活態度を養う。
- (4) 自ら学ぶ意欲と時代や社会の変化に対応できる能力の育成に努める。

2 本年度の努力点と推進計画

(1) 主題

本校の教育目標と令和5年度名古屋市学校教育の努力目標「ともに学び 自分らしく生きる」に基づき、本校の生徒の実態を踏まえ、次のような努力点を設定する。

考動しよう!!!
～自分で考え、行動に移すことができる生徒の育成～

(2) 主題設定の理由

本校では、一人一人の生徒が主体的に判断して行動することを「考動」と定義づけ、過去2年間、下記の3つの柱を立て、この素地となる力を育成してきた。

- | |
|--------------------------------|
| I 授業づくりの見直し |
| II 学校生活（委員会、生徒会、学校・学年行事等）での取組 |
| III 「人間関係形成・社会的形成能力」においたキャリア教育 |

本主題を設定した理由は、学習指導要領解説総則編の中に、「情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展するようになってきている。このような予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。」とあり、これからの予測困難な時代中でも、「一人一人が未来の創り手となる人材を育成すること」をビジョンにしたためである。

本年度は、本主題の最終年度と位置づけ、実際の到達度を測る「学習評価」を軸にした「PDCA」サイクルの「見える化」への取り組みを行っていく。授業や、学校生活、そしてそれらをつなぐキャリア教育のいずれに対しても、どのように評価をし、どのように次の単元に生かしていくのかを、生徒や職員同士で共有できるようにしていく。

(3) 努力点推進に向けて

I 「授業づくりの見直し」について

① 逆向き設計の授業づくり

新学習指導要領完全実施に伴い、育てたい資質・能力に着目し、単元・題材の構成を考え、逆向き設計で授業づくりを見直す。

また、「～ができて」「～しようとしている」といった評価規準を明確にするとともに、規準が妥当であるか検討をする。そして、評価規準を基に授業のめあてを設定し、授業の導入で生徒に示し、授業を行う。

② 自らの学びを調整し、粘り強く取り組む生徒を育てる

OPP（One Page Portfolio）シートの活用や自己評価や相互評価等を取り入れた評価・指導の工夫を取り入れる。そして、生徒の学びの調整力や粘り強さを捉えていく。

③ 「なかまなビジョン」に基づく学習活動を取り入れた授業を行う

自分の考えをもち、表現する（特に自分の言葉にして）場面を確保する。

④ ICT の活用

学習者用タブレットを活用することで、個別最適な学びの「指導の個別化」「学習の個性化」の二つの側面を踏まえ、個に応じた指導を充実させると同時に、あらゆる他者と共同で作成・編集等を行う活動や多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動により、協働的な学びもまた発展させていく。

⑤ 教科部会や教科横断的な学習の活性化

教科部会や教科横断的な学習への取り組みを活性化し、職員の中で小グループを形成し、授業を見合ったり、PDCA サイクルが確立されているかどうかを確認し合ったりする。

II 「学校生活（委員会、生徒会、学校・学年行事等）での取組」について

他者を思いやり、生徒が自ら考えて、行動に移すことができる場面を多く設定する。

III 「人間関係形成・社会的形成能力」に重点を置いたキャリア教育

多様な他者の考えや立場を認め合い、理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力を育てる。

(4) 各部の目標

① 学習指導部

- 自らの課題に気付き、学びを調整しながら粘り強く取り組む。
- 学習課題について自分の考えをもって、表現する。

② 生活指導部

- 基本的生活習慣を身に付けさせ、主体的に行動できるようにする。
- 約束を守ることを努力し、発言や行動に責任をもつことができるようにする。
- 集団の一員としての自覚や、多様な考えを認め、正しい判断力をもつことができるようにする。

③ 道徳指導部

- 重点項目を中心として授業実践する中で、目標の達成を目指し、学習に粘り強く取り組み、自信をもって行動することができる生徒の育成を目指す。

④ 特別活動部

- 生徒が主体となり、自信をもって行動することができる活動の計画と実践。
- 集団の一員としての自覚をもち、他者を思いやり、積極的に行動することができる活動の計画と実践。

(5) 各学年の目標

- 第1学年 「礎 ～千里の道も一歩から～」
- 第2学年 「自立と自律 ～自主性と責任感～」
- 第3学年 「最高の瞬間をみんなに広げよう！ ～自ら考え行動する～」
- 特別支援 「仲間と共に学び考え、生き生きと活動する
～自分の存在感を感じ、他者を認め合い、たくましく生きる～」

(6) 推進計画

1 学期	4 月	・ 努力点の設定と推進の立案 ・ 各教科の指導目標の設定・年間指導計画・評価規準の作成 ・ 学年指導目標の設定・年間指導計画の作成 ・ 各部の指導目標作成・年間指導計画の作成
------	-----	--

	5～6月 7月	・指導計画に基づく実践 ・1学期学習会（全体会）
2学期	9月～ 12月	・実践計画の修正、修正案に基づく実践 ・2学期学習会（学校開放日での実践）
3学期	1月～ 3月	・年度末反省、努力点の実践のまとめ（最終報告）、自己評価 ・来年度の計画と検討

(7) 各教科等の目標

教科	努力目標
国語	他者と考えを聞き合い、自分の考えを広げたり、深めたりする活動を通して、社会生活に生きる国語の能力を身に付けた生徒を育成する。
社会	資料の読み取りや話し合い活動を取り入れ、自ら取り組む態度を育てることで、社会科として必要な基礎・基本的な学力を身に付けた生徒を育成する。
数学	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念を理解することができる生徒を育成する。
理科	実験観察の技能を身に付け、身の回りの現象を主体的に探求して考察し、自らの言葉で表現することができる生徒を育成する。
音楽	音楽会などの行事を通して、音楽をつくり上げる喜びと感動を味わうことができる生徒を育成する。
美術	完成作品のイメージを明確にし、計画的に制作することができる生徒を育成する。
保健体育	生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために、得意・不得意に関わらず、自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断することができる生徒の育成。
技術・家庭	ものづくりを通して、材料の加工、エネルギー変換などの技術を身に付け、その技術を活用し、身近な生活での問題点を見付けたり、解決したりすることができる生徒を育成する。
英語	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成する。
特別支援	生徒一人ひとりの心身の発達に応じた指導目標や指導内容の妥当性の向上を十分に配慮し、興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうことができる生徒を育成する。

(8) 研究組織

